

# 琉球病院 Monthly



独立行政法人  
国立病院機構 琉球病院  
National Hospital Organization RYUKYU Hospital

Vol.104  
2023. July

発行者 琉球病院事務部長  
大城 英作

## 基本理念 この病院で最も大切なひとは医療を受ける人である



### 副院長就任のご挨拶

琉球病院副院長 真栄里 仁

2023年6月より琉球病院副院長を拝命しました真栄里 仁(まえさと ひとし)と申します。着任したてですが、沖縄県の中・北部地域の精神科医療の中心である当院で、臨床医として働ける刺激的な毎日を楽しんでおります。

当院では、従来より高い専門性を生かした医療を提供しています。治療抵抗性統合失調症治療薬(クロザリル)では、全国唯一の専門病棟があり、担当の木田医師は処方件数が全国で最も多く、厚労省の研究班等でも活躍されるなどクロザリル治療の第一人者です。また児童・思春期精神科医療でも、当院は子どものころ専門医研修の基幹病院であり、県の子どもの心の診療ネットワーク事業も担っており、県内各地より多くの患者さんが受診され、原田医師を中心とした専門チームで子どもさんやご家族の回復をサポートしております。司法精神医療も、長い歴史のある大規模な病棟を有し、日本の医療観察法医療のキーパーソンの病棟医長の久保医師をはじめとする多職種チームが、地域の様々な社会資源と連携しながら社会復帰を目指した先端的な取り組みをしております。また当院は精神科スーパー救急も担当するなど、中北部の精神科救急の基幹病院の一つであり、長年当院に勤務される中井医師が、その窓口となっています。中井医師は他にもアルコールやギャンブルの依存症治療も担当されております。また県内唯一の重心病棟では、小児科、精神科双方の経験を持つ島袋医師や原田医師を含む多職種チームで80名以上の患者さんの包括的ケアをおこなっております。それ以外でも長期的ケアを目的とした専門病棟もあります。

そのような高い専門性を誇る当院に6月から赴任した私ですが、名前からもわかるように沖縄出身です。宮古島で生まれ、群馬大学卒業後に県立中部病院、琉球大学医学部精神科、宮古病院を経て、2003年から神奈川県国立病院機構久里浜医療センターに勤務し、依存症臨床や、アルコールに関連した行政、教育活動などに関わってきました。アルコール病棟の再立ち上げというタイミングで当院に赴任することになり、これまでの経験を活かして、地域のアルコール依存症医療の発展に貢献できるよう頑張っていく所存です。

一方で専門性だけでは、医療機関としては不十分です。特に精神科医療においては、知識や技術、薬だけでなく、スタッフ一人一人の温かい心を持った支援が患者さんの回復には必要です。当院は、“この病院で最も大切なひとは医療を受ける人である”を理念とし、この理念を実現するために、1. 必要とされる医療の追求と提供、2. 開かれた精神科医療と病院の創造、3. エビデンスに基づいた精神医療の提供、4. エビデンスを提供できる医療、5. 健全な財政運営、を運営方針としております。

今までも、そしてこれからも、地域と病に苦しめる患者さんに貢献できる医療機関であり続けることを目指して、職員一同研鑽に励んでいきますので、今後ともご支援よろしく申し上げます。

### ● 看護部

看護部長 古城 二美代

当院は平成12年にアルコール症治療病棟を開棟し、この20年余り沖縄全域からアルコール依存症の患者さんを受け入れてきました。薬物投与やカウンセリングに加え、医師・看護師・コメディカルの医療チームによる専門的な治療をおこなって参りましたが、新型コロナウイルス発生の影響により、令和3年11月より診療機能を依存症病棟からコロナ病棟へ転換しておりました。そのため、依存症の入院は急性期病棟で対応させていただいていましたが、患者さん、ご家族、地域の医療施設のみなさまにはご不便をおかけしたのと思います。今年5月に新型コロナウイルスの感染症上の位置づけが2類から5類へと移行したタイミングと依存症医療のエキスパートである真栄里仁副院長を当院へ迎えるタイミングで、6月1日より依存症病棟を再開することができました。これからも地域のニーズに応え、患者さんへ良質な看護を提供できるよう看護職員一同力を尽くしますので、今後ともご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

### 院長



ふくじ やすひで  
福治 康秀

1964年生まれ、那覇市出身、首里高校卒。1993年琉球大学医学部卒、琉球大学医学部精神神経科入局。95年那覇市立病院精神科、96年琉球大学精神神経科、2009年琉球病院精神科部長、2010年副院長を経て2014年琉球病院長に就任。日本病院・地域精神医学会理事。琉球大学医学部 臨床教授。

### 診療科

- ・一般精神科
- ・こども心療科
- ・クロザリル外来
- ・アルコール依存症等外来

### 病床数

353床

- ・精神 151床  
(一般精神・クロザピン専門・精神科救急)
- ・アルコール依存症 44床
- ・児童思春期ユニット 4床
- ・重症心身障がい 90床
- ・医療観察法 37床



路線バス 那覇BS(下り)または名護BS(上り)より  
沖縄バス「77番名護東線」浜田バス停  
下車徒歩3分

自動車 那覇市から40分沖縄自動車道道金武  
インターから名護向け5分

### お問い合わせ

時間 8:30 ~ 17:15  
(土・日・祝日・年末年始以外)  
TEL 098-968-2133(代)  
内線 231・234

### 地域医療連携室(直通)

TEL 098-968-3550  
FAX 098-968-7370

## 治療抵抗性精神疾患への医療

精神科医師 木田 直也



## クロザピンの治療状況

治療抵抗性統合失調症の患者さんに対して、当院では2010年2月からクロザピン（CLZ）治療を開始し、全症例数は延べ386例になりました。2023年5月のCLZ導入数は3例で、すべて他の医療機関からご紹介をいただいた入院中の患者さんでした。CLZ治療前には暴力行為や多飲水などの問題行動のために隔離や身体拘束が必要な患者さんも多くいらっしゃいましたが、CLZ継続例では問題行動も消失、もしくは軽減し、隔離や身体拘束は、ほとんどの症例で解除できています。週に3回のCLZ専門外来も行っていますので、患者さんのご紹介をお願いいたします。当院でのCLZ治療や沖縄県での地域連携の実際については、ノバルティスファーマ社の医療関係者向けサイトのクロザリル/クロザリル適正使用の流れ (<https://drs-net.novartis.co.jp/dr/product/clozaril/guide/>)でも動画が公開されていますので、ご参照ください。

## 地域連携室

精神保健福祉士 長浜 直輝

当院ではアルコール病棟の再立ち上げに伴い、外来でのアルコールリハビリテーションプログラム（以下ARP）を開始する運びとなりました。外来ARPでは、アルコール依存症に対する正しい知識や、断酒・節酒の技術を身に付ける事が出来ますので、多くの方のご参加をお待ちしております。ご興味のある方はお気軽に地域医療連携室までお問い合わせください。

開催日時は下記の通りとなります。

開催日：第2・第4 金曜日 14:00~15:30 場所：外来棟1階



## こども心療科

心理療法士 我喜屋 良行

琉球病院では県から「子どもの心の診療ネットワーク事業」の委託を受け、医療機関や他機関とのネットワーク作り、人材育成などの取り組みを行っております。その一環として、こども心療科でも、県内の医療従事者を対象とした実地研修の受け入れを行っており、診療席席や研修等を通して、こども心療科で行っている診療の実際やノウハウを発信しています。

昨年度は、医師や看護師、精神保健福祉士・社会福祉士、臨床心理士・公認心理師など、12名の参加があり、今年度もすでに何名かの研修を実施、問い合わせをいただいております。

これまでの受講後のアンケートからは、研修内容に満足いただけていることや、「次年度も受講したい」など継続を求める声を多くいただけており、私どもの励みになっています。それと同時に私たちにとっても、第三者の視点が入ることで日頃の診療の在り方を振り返り、整理する良い機会が増え、子どもの心の診療に携わる支援者の皆さんとのつながりができることを嬉しく感じています。

県内では、子どもの心や発達に関する相談の、受診待機期間の長期化が課題となっています。今後も人材育成の取り組みを通して、子どもの心の診療に対応できる医療機関の増加に向けて協力していけたらと考えています。

## 包括的地域精神医療

訪問看護師長 長嶺 早苗

山原の山を彩っていたイジユの花も散りかけ、梅雨も明けようかという季節になりました。訪問看護では5月末から16時30分以降の訪問を希望される方のため、週1回火曜日に遅番勤務を取り入れました。利用者の方の喜ばれる声がかれ励みになっています。現在は週1回ではありますが、利用者の方の希望が多くなれば対応を検討していきたいと思っております。今後も、利用者の方々の些細な変化を捉え、話し合い地域での生活を支えていけるよう利用者の方々と一緒に考えていきたいと思っております。

## DPAT 活動報告

心理療法士 諸見 秀太

災害派遣精神医療チーム（Disaster Psychiatric Assistance Team 以下DPAT）とは、自然災害や航空機・列車事故・犯罪事件などの集団災害が発生した場合、発災直後から被災地域に入り、中長期にわたり精神科医療および精神保健活動の支援を行う専門的なチームです。DPAT隊員の構成は、精神科医師、看護師、業務調整員で構成されており、当院は、医師1名、看護師9名、業務調整員3名、計13名の隊員で活動しております。また、発災から概ね48時間以内に被災地域において活動できるDPAT先遣隊として登録しており、被災地域におけるDPAT調整本部機能の立ち上げやニーズアセスメント、急性期の精神科医療ニーズへの対応等の役割も担っています。

当院は、このDPATを有していることも指定条件となっている災害拠点精神科病院として令和3年9月に沖縄県より指定を受けており、災害時の地域精神科医療の中心的な役割を担うこととなっています。

今後このマンスリーでは、DPAT活動報告や災害拠点精神科病院としての動向などをお伝えしていきたいと思っております。